

インターネットとの向き合い方

ニセ・誤情報

にだまされないために

《《 第 2 版 》》
(2025年2月改訂)

講座の概要

1. 本講座の概要（1）

開発の背景

- 本講座は、2021年度に総務省が進めるICTリテラシー向上施策の一環として開発した。2024年度には、最新の事例や生成AIの影響、研究成果を踏まえて改訂した。
- 国内外の先行事例や研究成果を参考にしつつ、日本独自の課題に対応する形で設計している。特に、EUの「GET YOUR FACTS STRAIGHT!」や「Spot and Fight Disinformation」を基にしながら、国内の受講者に適した内容とした。

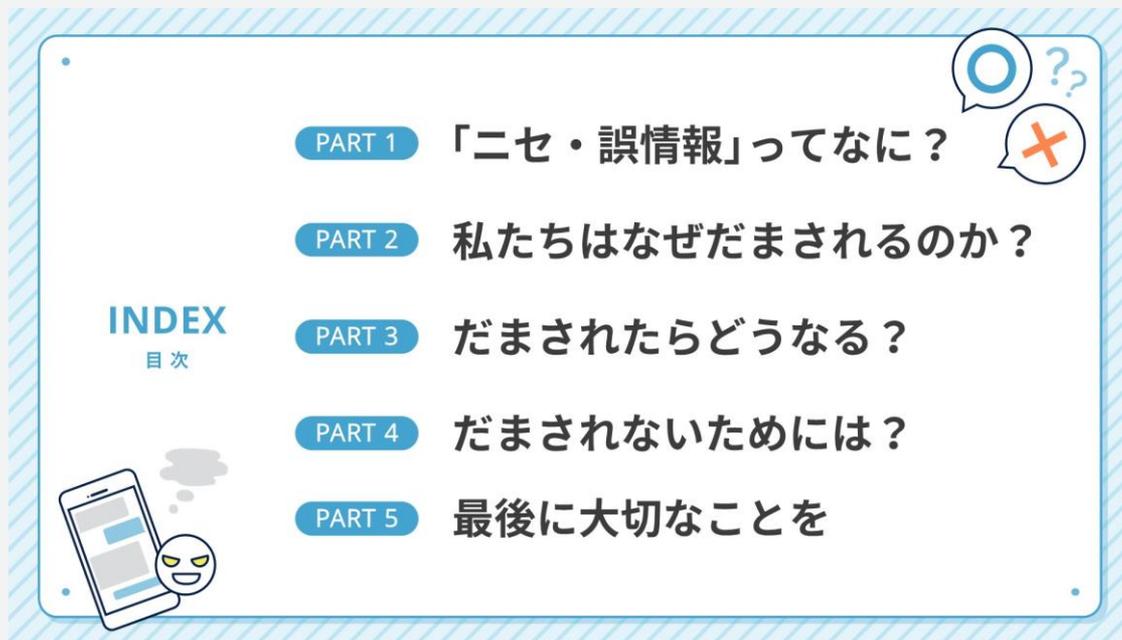
受講対象・形式

- 中学生以上の若年層から成人世代まで幅広く対象としている。
- オンラインで実施可能な形式となっている。
- 講座資料と講師向けガイドラインがあり、それぞれppt形式のため、自由に編集可能となっている。また、講師向けガイドラインは、読み上げるだけで講座の実施が可能な内容である。

1. 本講座の概要（2）

講座の構成

講座は以下の5つのパートで構成されている。



INDEX
目次

- PART 1 「ニセ・誤情報」ってなに？ 
- PART 2 私たちはなぜだまされるのか？
- PART 3 だまされたらどうなる？
- PART 4 だまされないためには？
- PART 5 最後に大切なことを 

1. 本講座の概要（3）

- 本講座では、以下の10の学習目標を設定し、受講者が二セ・誤情報の本質を理解し、適切な情報判断能力を養うことを目指している。
- 学習目標の設定に当たっては、EUの「Spot and Fight Disinformation」を参照した。

学習目標

1. 二セ・誤情報の特徴を理解する。
2. 誤解を招く情報の種類を理解する。
3. 自分がだまされる可能性とその理由を理解する。
4. 二セ情報が発信される動機を理解する。
5. 誤った情報の共有が社会に及ぼす影響を理解する。
6. アルゴリズムが情報接触到に与える影響を理解する。
7. 信頼できる情報源にどのようなものがあるかを知る。
8. 情報を確認する方法を知る。
9. 情報との適切な向き合い方を知る。
10. 事実と意見の区別の重要性と、多様な意見の存在を理解する。

2. 効果検証テスト・意識調査・講座アンケートの概要（1）

本講座の効果を測定するため、受講生に対して以下の3種類のテスト・調査を実施する。

検証方法の概要

- **効果検証テスト（事前・事後テスト）**
受講生の理解度の変化を定量的に測定。
- **意識調査**
受講後の受講生の意識変化を確認。
- **講座アンケート**
講座内容の評価を収集し、今後の改善に活用。

2. 効果検証テスト・意識調査・講座アンケートの概要（2）

効果検証テストの詳細

- 形式

全10問（各設問は学習目標に対応）

- 採点

10点満点で、講座前後のスコア変化を分析。それぞれの問いについて、正解であれば1点、そうでなければ0点で部分点はない。

- 内容例

- ニセ・誤情報の拡散特性
- 誤情報の種類とその影響
- 情報の信頼性評価の手法
- アルゴリズムによる影響
- 事実と意見の区別

2. 効果検証テスト・意識調査・講座アンケートの概要（3）

意識調査の内容

- 過去にニセ・誤情報を信じた経験の有無
- 過去にニセ・誤情報を発信した可能性についての認識
- 情報に対する注意の向上意識
- ニセ・誤情報の判別能力向上への関心
- 学習内容の他者への共有意欲

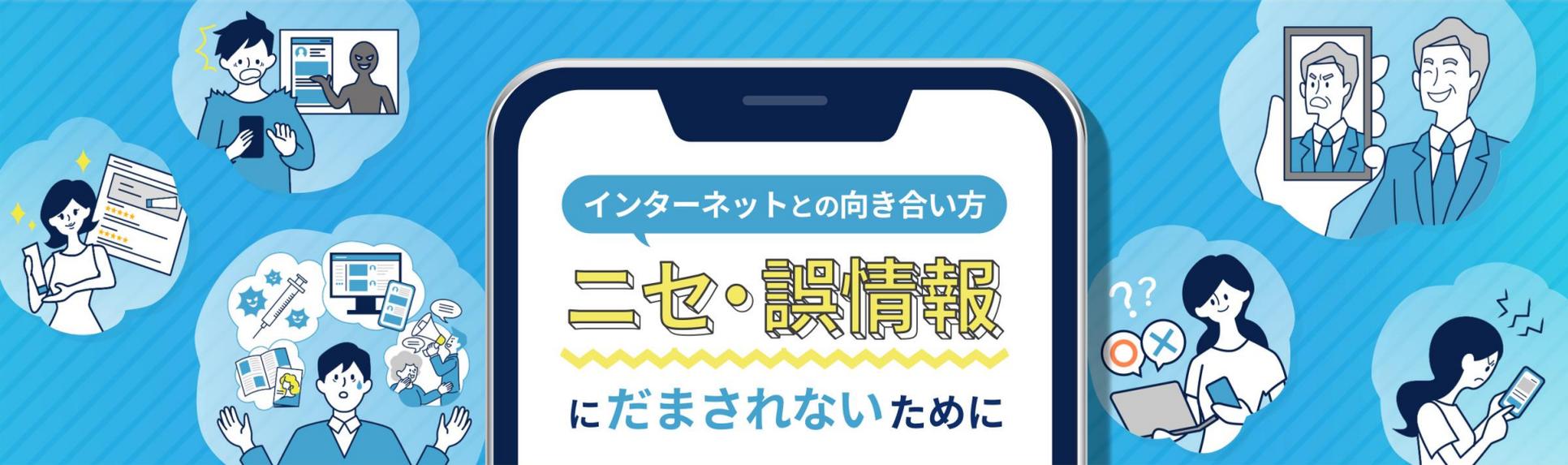
講座アンケートの内容

- 講座全体の評価
- 講座時間の適切性
- 講座資料の質
- 受講しやすい時間帯の希望
- 受講しやすい形態の希望
- 講座資料・講師への意見・要望

3. まとめ

- 本講座は、ニセ・誤情報に関するリテラシー向上を目的とし、学習目標を達成するために設計された。
- 効果検証テストにより、受講者の知識・意識の変化を測定し、講座の改善に活かす仕組みを整えている。





発行者 総務省 情報流通行政局 情報流通振興課 〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2

制作 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

監修 山口 真一 (国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 准教授)
小木曾 健 (国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 客員研究員)
古田 大輔 (株式会社メディアコラボ 代表)

デザイン 渡部 玲花 (ワタナベスライドデザイン)
伏見 まどか (Fushimi Design)

講座の概要